

職員による自己評価

A 環境面

- ・スペースの確保は、適切だと思っている職員が大半である。
- ・職員配置については適切と考えている職員がほとんどである。
- ・バリアフリー化については、階段の手すりの必要性や 1 階のトイレの不自由さがある意見が多かった。

B 児童への支援内容

- ・全体的に良いと感じている。
- ・プログラムの工夫について固定されていると感じている常勤職員がいた。

C 関係機関との連携

- ・学校などの関係機関に対しての連携は概ねできていると感じている。
- ・父母の会等については開催していない。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者に活動概要や連絡体制等の情報を発信していると感じている職員が多い。

E 非常対応

- ・マニュアルは周知されている。
- ・職員向け研修の機会は概ね確保している。
- ・避難訓練をおこなっている。

保護者による評価

A 環境面

- ・職員配置数は概ね適切と考える人は多いが、適切なスペースの確保については、どちらでもないという意見が半数だった。
- ・バリアフリー化について“どちらともいえない”“いいえ”の意見があった。

B 児童への支援内容

- ・個別支援計画はニーズや課題が分析された計画がされていると感じている人が多い。
- ・活動を工夫していると感じている人が多い。
- ・放課後児童クラブや児童館など交流を希望されている方は 1/3 で“どちらでもない”“希望しない”と答えた方のほうが多い。

C 事業所からの情報発信

- ・事業所からの情報発信や説明は概ね良好だと思っている。
- ・定期的な会報やホームページを自己評価の結果や連絡等を発信されていると感じている人がほとんどである。
- ・父母の会などは“どちらでもない”“希望しない”が多い。
- ・非常時のマニュアルや避難訓練について概ね周知されている。



事業所内での分析

【共通点】

- ・児童の支援内容についての認識は共通であった。
- ・職員配置についても共通点が多い。
- ・非常時についての概ね周知されている。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・保護者の説明等についての評価が高い。
- ・職員間のミーティング、打ち合わせ、振り返りをおこなっている。
- ・支援内容について、保護者から評価されている。
- ・職員は支援について意識が高い。

事業所の改善点

- ・2階の階段が急だが手すりがない。
- ・日々の活動のプログラムの工夫や長期休みや祝日のプログラムの組み立て方など改善していく必要がある。

事業所の改善への取り組み

- ・階段に手すりを付けることを検討する。
- ・活動の工夫や長期休みや祝日プログラムの充実化について検討する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・環境や活動のプログラムなどの改善を踏まえより良い支援ができるよう努力していきたい。

事業所名 キッズサポート・きらら  
担当者 大堀 竜哉